

## 集約型都市構造の実現に向けた都市戦略に関する研究

主査 森本章倫(宇都宮大学准教授)

わが国は人口減少社会に突入し、都市においても拡大期から縮退期へ移行しはじめた。都市計画においても郊外からの計画的な撤退が議論され、各地で「集約型都市構造」の必要性が提唱されるなど、近年我が国においてコンパクトシティ政策が注目を集めている。

しかし、郊外からの撤退を含む市街地の縮退は、理想的には理解できるものの、現実的には多くの問題を抱えている。特に計画的に縮退を進める制度の不備や、そもそも市場経済のなかでスプロールした市街地が集約化するのかといった疑問が挙げられている。そこでここでは、集約化における課題とその実現性について多様な視点から討議することで、実現に向けた都市戦略への示唆を得ることを目的とする。本研究では概ね以下の視点で議論を行い、具体的な都市戦略の整理を試みた。その概略を以下に示す。

### 1) 集約型都市構造に向けた立地誘導策の整理

持続可能な都市の形成を目的に、都市を構成する住宅、商業、産業などの立地を適地に誘導する技術体系を「ロケーション・マネジメント」と定義し、その考え方を示した。特に、居住機能の立地施策を以下の3つに分類して、各都市の施策事例を整理した。

- ① 転入誘導策：集約側の居住移転策で、集約エリア内への転入を誘発させる施策。
- ② 転出対応策：撤退側の居住移転策で、移転後の宅地の環境整備や再利用施策。
- ③ 移転誘導策：撤退側の居住者に対して、集約側へ移転することを誘導させる施策

### 2) 集約型都市と医療：在宅医療、医療・福祉とまちづくり

医療・福祉分野の現状をもとに、在宅医療のための物流サービスのあり方について検討した。また、高齢福祉の先進事例や医療とまちづくりの先進事例を通して、今後の医療・福祉のためのまちづくりについて整理を行った。

### 3) 高齢者の移転誘導策：高齢者の居住実態と介護保険制度

高齢者の住まいに係る現状をもとに、居住実態や居留意向を把握した。また、介護保険制度や生活福祉資金などの実態をとおして、高齢者の居住移転の可能性について検討した。

### 4) 集約側の魅力づくり：エリアマネジメント

米国のスマートグロース政策を事例として挙げ、中心市街地の魅力アップによる誘導策を検討した。特にエリアマネジメントとして BID を紹介し、この考え方を日本に導入する際の課題を整理した。

### 5) 過疎・高齢地域における居住形態

過疎化・高齢化の進行している群馬県六合村を事例として、人口動向や居留意向を調査し、限界集落化の実態を明らかにした。また、独自に集落分類を試み、集落特性を踏まえた居住形態の提案を行った。